

令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰 被表彰団体事例紹介

役場や市役所の地域づくり課（コミュニティ協議会）を中心に

地域のあたたかい見守りで、安心・安全・牛尾っ子

牛尾校区コミュニティ協議会（伊佐市）



【主な活動内容】

牛尾っ子見守り隊（毎日の登校や毎週水曜日の山坂達者の日に合わせた見守り活動）、土曜授業の支援（米作り、社会科見学等）、郷土教育の学習支援（地域の高齢者をふるさと先生として派遣）

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を中心に

故郷「蓬原」のよさを未来につなぐ「よもぎっ子」の育成

蓬原小学校運営協議会（志布志市）



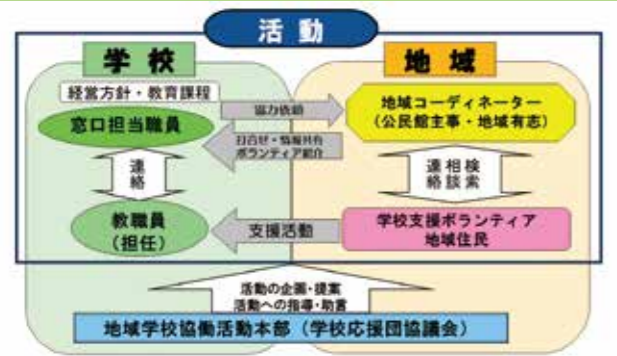
【主な活動内容】

伝統芸能の継承活動（伝統芸能保存会が児童へ指導、希望する教職員が後継者として活動）、郷土「蓬原」地域の素材を活用した活動（文化財フィールドワーク、長寿会との交流活動等）

市町村教育委員会（地域学校協働活動本部・条例公民館）を中心に

地域の中に学校，学校の中に地域を！！～地域ぐるみによる子どもの育成～

今和泉小学校区地域学校協働活動（指宿市）



【主な活動内容】

小牧茶いっぺサロン（高齢者）との双方向の交流活動、学校支援活動（書写指導、裁縫指導、紙すき体験等）、高校生ボランティアによる放課後子ども教室での学習指導

【令和2年度版】

かごしま地域学校協働活動

～あなたのキラリがかがやく場所に～

地域からのアプローチ

「学校を核とした地域づくり」を目指して

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で未来を担う子どもたちの学びや成長を支えるとともに、**地域と学校が相互に連携・協働**する体制整備の推進

学校からのアプローチ

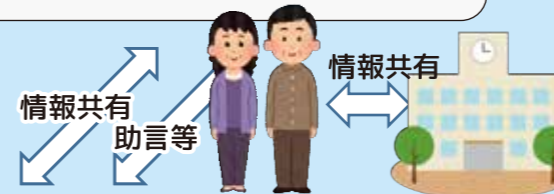
「地域とともにある学校づくり」を目指して

よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念と、子どもたちが未来社会を切り拓くために求められる資質・能力とは何かを**学校と社会とが共有し、連携**する「**社会に開かれた教育課程**」の実現

地域学校協働本部

地域学校協働活動推進員

【地域と学校をつなぐコーディネーターの役割】
・地域住民と学校との情報共有
・地域住民等への助言等



地域

学校

地域と目標やビジョンの共有

※ 学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」と呼んでいます。

地域学校協働活動

- 学校に対する多様な協力活動（学習支援、環境整備、部活動指導補助など）
- 放課後等における学習・体験活動（放課後子ども教室、体験活動など）
- 多様な教育的ニーズのある子どもたちへの学習支援（地域未来塾、学習支援事業「〇〇塾」など）
- 外部人材等を活用した土曜日等における教育支援活動（ふるさと学寮など）
- 地域人材育成、郷土学習（職場体験学習、まち探検、地域の産業の学びなど）
- 地域行事、イベント、祭り、ボランティア活動等への参画
- 家庭教育支援活動（子育てサロン、家庭教育相談室開設、家庭教育学級など）
- 学びによるまちづくり、地域課題解決型学習（合同防災・避難訓練など）

各活動の詳細については、次のQRコードより鹿児島県ホームページを御覧ください。



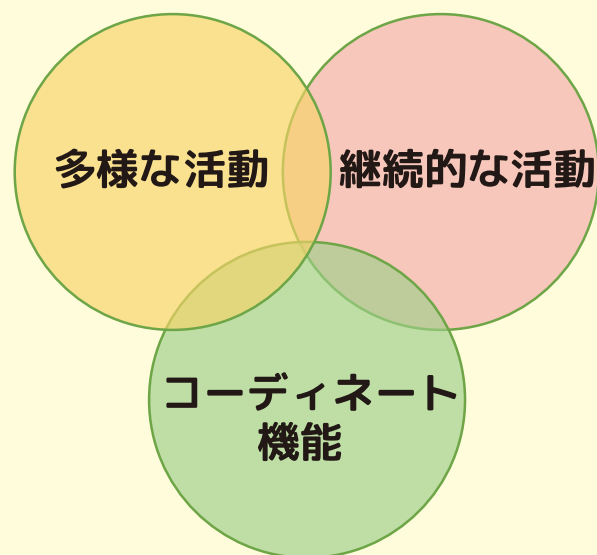
- ・ 規範意識や自尊感情、コミュニケーション能力が高まる
- ・ 地域への関心の高まり、郷土愛が育まれる

Q 「地域学校協働本部」の体制整備に必要な要素は？

期待される子どもへの効果

「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて

A: 「地域学校協働本部」の体制が恒常的、組織的、安定的に実質を伴ったものとして持続するためには、地域と学校が子どもたちの育成の方針など目指すべき方向性を共有しつつ、「支援」から「連携・協働」へ、「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことを前提とした上で、「多様な活動」、「継続的な活動」、「コーディネート機能」の3要素が必要となります。

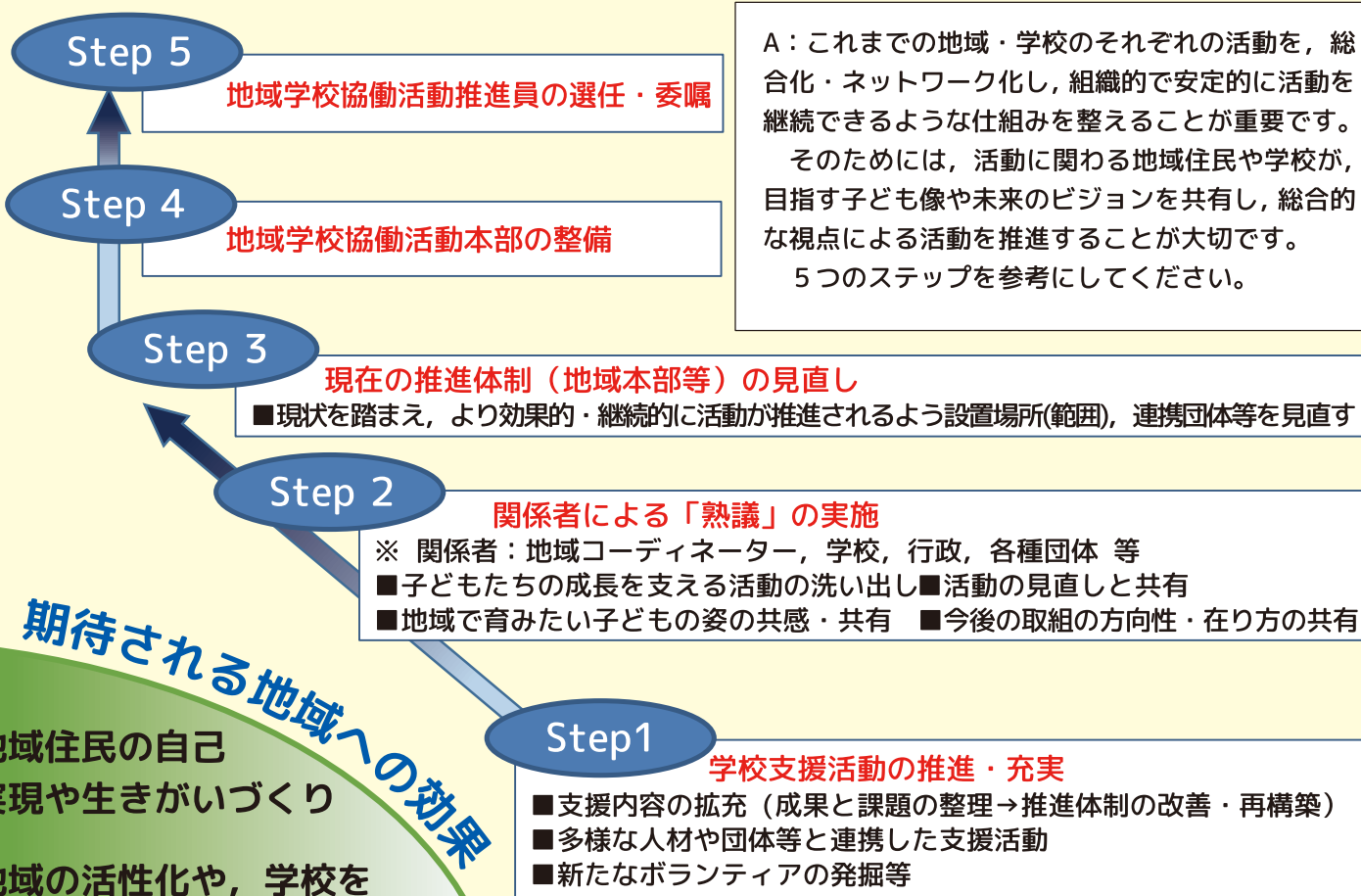


【多様な活動】
地域学校協働活動の関係者会議や研修会を通して、関係者の資質の向上を図ったり、活動を見直したりすることが、多様な活動への推進につながります。

【継続的な活動】
活動を地域の年間行事計画や学校の教育課程に位置付けたり、地域と学校の相互のPDCAサイクルに生かしたりすることが、より効果的に継続的な活動につながります。

【コーディネート機能】
教育委員会から選任・委嘱された地域学校協働活動推進員(コーディネーター)が、地域の人材と関係機関・団体をつなぎ、コーディネートしていくことが、活動の充実につながります。

Q 学校支援活動から地域学校協働活動へ移行していくためには？



A: これまでの地域・学校のそれぞれの活動を、総合化・ネットワーク化し、組織的で安定的に活動を継続できるような仕組みを整えることが重要です。そのためには、活動に関わる地域住民や学校が、目指す子ども像や未来のビジョンを共有し、総合的な視点による活動を推進することが大切です。5つのステップを参考にしてください。

子どもたちが未来社会を切り拓くために求められる資質・能力とは…

- 何を理解しているか、何ができるか ⇒ 生きて働く「知識・技能の習得」
- 理解していること・できることをどう使うか ⇒ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか ⇒ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

確かな力を身に付けるためには…

- 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現
- カリキュラム・マネジメントの充実
- 児童生徒の発達の支援、家庭や地域との **連携・協働**



～教育課程を介して地域社会とつながる学校の姿【例】～

教育活動全般(教科、総合的な学習の時間、学校行事等)と地域の教育素材(伝統文化、自然、人材等)を統合的に教育課程に位置付け、活動を展開する。



【活動例】～教育課程「『いのち』を大切に子どもたち子どもたち」～

地域の方々や保護員の指導によるウミガメの孵化・保護・観察・放流活動【総合的な学習の時間】

地域の方々との指導による米作りや郷土料理、収穫祭に合わせた交流活動【総合的な学習の時間、5年生社会科】

地域住民と合同で行う安全点検や地域安全・防災マップの作成活動【総合的な学習の時間】

完成した地域安全・防災マップを基にした学校・地域の合同避難(防災)訓練【学校行事】

= 培う心・育つ力 =
自他の命を大切にできる心、勤労・勤勉の心、課題解決をする能力、コミュニケーション能力、など

活動の振り返り

次年度の教育課程編成へ

活動の展開ポイント

- 家庭や地域の人々とともに子どもたちを育てていくという視点をもつ。
- 地域の教育資源や学習環境を更に活用する。
- 教育活動などについて家庭や地域の人々に適切に情報発信する。
- 家庭や地域の人々の学校運営などに対する意見を的確に把握し、教育活動に反映する。

・ 地域住民の自己実現や生きがいづくり

・ 地域の活性化や、学校を核とした地域づくり

・ よりきめ細やかな教育

・ 教員が、教育活動により一層力を注ぐことができる。